

中米・エルサルバドル、イロパンゴカルデラ起源のテフラと噴火年代

Eruptive dates of tephras from Ilopango Caldera, El Salvador, C. A.

*北村 繁¹

*Shigeru Kitamura¹

1. 弘前学院大学社会福祉学部

1. Faculty of Social Welfare, Hirosaki Gakuin University

中米・エルサルバドル、イロパンゴカルデラ起源の珪長質テフラ、TB1、TB2、TB3、および、TB4について、偏光顕微鏡観察とEPMA分析から、それぞれの鉱物組成と火山ガラスの化学組成を明らかにした。その結果、4つのテフラは互いに類似した特徴を示す一方、火山ガラスの化学組成のわずかな差異から、それぞれを判別できる可能性が見いだされた。一方、イロパンゴカルデラの約80km北西にあるサンタアナ火山周辺では、サンタアナ火山起源のスコリア層の間にLa Periquera ash、El Refugio ash と呼ばれる細粒火山灰が知られていたが、これらの鉱物組成と火山ガラスの化学組成を分析したところ、それぞれTB2およびTB4に対比されることが明らかとなった。これらのテフラは、これまでおよそ7000年前、30-45kaと推定されていたことから、イロパンゴカルデラは過去4万年程度の間、4回の珪長質テフラの噴火を生じてきたと推定される。

キーワード：TB4テフラ、大規模カルデラ噴火、火山ガラスの化学組成分析

Keywords: TB4 tephra, large caldera eruption, chemical analysis of volcanic glass